

# 2013年日本建築学会著作賞

## 選考経過

### 応募状況の概要

本年より「著作賞」が新設された。表彰の対象となるのは「本会会員が執筆した建築にかかわる著書であって、学術・技術・芸術などの進歩発展あるいは建築文化の社会への普及啓発に寄与した優れた業績」である。

今回は合計 103 件の応募があった。内訳は、建築学一般 12 件、建築家 5 件、建築史・都市史 12 件、伝統建築 5 件、建築計画・設計製図・職能論 9 件、建築構造・構造力学 6 件、建築環境・設備 10 件、住宅建築 6 件、都市論・都市案内 6 件、まちづくり・コミュニティ 9 件、景観・ランドスケープ 2 件、地震災害・防災 7 件、建築法令・法規 2 件、建築政策・住宅政策 2 件、ストック活用 3 件、建築経済・不動産 1 件、教材 6 件と、非常に多岐にわたる応募を得た（以上、分類は選考委員会による）。

### 審査経過の概要

#### (1) 審査の対象

第 1 回著作賞選考委員会は 2012 年 7 月 28 日に開催された。賞のあり方を審議しながら応募要領の検討を行った結果、審査の対象を下記のとおりとして募集することとした。

- 1) 2005 年 6 月 1 日から 2012 年 5 月 31 日までに刊行（または翻訳刊行）され、市販あるいは図書館などで公開が保証されている新刊の著書（論文集等の論文、雑誌等の記事は除く）を対象とする。
- 2) 日本建築学会編または日本建築学会刊行の著書は、審査対象としない。
- 3) 著者は本会会員であることを原則とするが、共著者の一部に本会会員外の者を含むことは構わない。
- 4) 著書の出版形態は、紙、電子出版物など著作賞選考委員会が認めたものとする。
- 5) 著書の使用言語は日本語または英語とする。

#### (2) 内部査読

第 2 回選考委員会は、10 月 11 日に開催された。締切（9/20）までに 103 件の応募があった。このなかから内部査読（著作賞選考委員会内部の査読）の対象とする著作を選考すべく、各委員が事前審査を行った集計経過をもとに討論と投票を重ねた結果、20 件を内部査読の対象業績とした。著作一件につき 2～3 名の選考委員で査読を分担することとし、査読結果の提出締切を 12 月 10 日とした。

#### (3) 専門査読

第 3 回委員会は、12 月 13 日に開催された。内部査読の対象とした 20 件の業績から、専門査読（外部の専門委員による査読）の対象とする著作の選考作業を行った。各査読結果と講評をもとに、一件一件慎重に議論し投票した結果、9 件を専門査読の対象業績とした。専門査読は、著作一件につき選考委員 1 名および外部の専門委員 2 名の合計 3 名で行うこととし、専門委員を選定した。専門委員の承諾が得られ次第、査読を依頼し、査読結果の提出締切を 3 月 1 日とした。

#### (4) 授賞候補業績の選考

第4回委員会は2013年3月5日に開催された。専門査読の対象とした9件につき、査読結果ならびに講評を一件一件確認しながら議論を行った。その結果、査読者3名がA+評価を付けた2件、ならびに2名がA+、1名がA評価を付けた2件を授賞候補業績とした。

さらに議論を深めたうえ、査読者1名がA+、2名がA評価を付けた1件、査読者1名がA+、1名がA評価を付けた1件（1名は査読未提出）について審議した結果、これら2件を授賞候補業績とした。

以上、著作賞の表彰件数は5件を基準とすることになっているが、今回は初回でありまた多数の応募があったことから、2013年度は6件を授賞候補業績として選出した。